

まちのキラリびと

ミライエを敦賀市民みんなの自慢にすることを目標に活動中！

ミライエ運営委員会 委員長
宇野 精浩さん (47)

市民の力で作り上げたヒカリを未来へつなげたい。

ミライエは、今年で6年目を迎え、LED 50万球超の北陸最大級のイルミネーションに成長しました。きっかけは、「冬の金ヶ崎になんとか人を集めたい。」と思いついたことです。知り合いなどに声を掛け、約50人のボランティアではじめ、現在は130人程で運営しています。

「ミライエ」という名前は市民公募で決定し、「敦賀の未来が次へ繋がり、そして、未来への光を放つように」という意味が込められています。

ミライエでは環境にやさしい取り組みをするため、バイオディーゼルで発電しています。提供いただいた廃油を活用し、市民の皆さんにも企画の一端を担ってもらうことで、市全体の盛り上げに繋がっています。

夜の当番や準備で、大変なこともありですが、「きれいだね。ありがとう。」という言葉が何よりも心に響きます。また、子どもたちのSNSを使った発信力に驚きつつ、心強く思っています。

手作りのイベントだからこそ、多くの人たちの力を借りて、ここまでできました。これからも、敦賀の未来を照らし、市民の皆さん、そして観光客に愛されるミライエをみんなで作り続けていきます。今年も11月3日から12月25日まで皆さんのご来場をお待ちしています。



ミライエのイルミネーション

廃油回収

みんなで記念写真

まちの宝を発見！
つるが歴史遺産御影堂の天井を
見上げてみましょう

案内人

学芸員 中野 拓郎



西福寺御影堂

基本
情報種別：重要文化財（平成20年6月9日）
所在地：原

豪壮な建築が示す敦賀湊の隆盛

西福寺御影堂は、阿弥陀堂、書院および庫裏と並んで国の重要文化財に指定されています。また書院、阿弥陀堂から望む庭園は、国の名勝に指定されており、西福寺は建物と庭園とが一体となった、豊かな風致を創出していることに高い評価を受けています。

現在の庭園と建物の配置になったのは文化5年（1808年）、御影堂が建立された時です。ちょうど北前船が盛んになってきた時期で、敦賀湊は日本海沿岸の諸都市との流通により経済、文化の交流を深めていました。御影堂の棟札には、信徒に加え船主や問屋などの商人の名を見ることができます。

御影堂の中に入ると、内陣に用いられた太い丸柱や、天井板で用いられている長さ約15m、幅1m弱もある15枚の杉板など、豪快な部材に圧倒されます。特にこの天井板は、南越前町赤荻の信徒の寄進によると伝わり、舟で板を敦賀まで運んだ際に帆柱に祀っていた金比羅大権現は、御影堂と阿弥陀堂をつなぐ四修廊下の一角に祀られています。

御影堂が建てられてから200年以上が経過しましたが、建物からは建立当初の敦賀の様子や、当時の人々の思いを知ることができ、これを未来へ繋いでいくため、西福寺では建物の大規模な修復が予定されています。秋は西福寺庭園が紅葉で鮮やかに彩られる季節です。美しい風景と共に、過去から未来へ続く時間に思いを馳せてはいかがでしょうか。

広報担当者の
つぶやき

先月末、子どもたちと公園へ。近所に住む小学2年生の甥っ子たちも加わり、鬼ごっこをしました。私が鬼でスタート。さすがに小学校低学年の子どもたち相手に、本気を出したらかわいそうと、手加減したら追いつけず、全力疾走でも距離が縮まらない。子どもの成長が早いのか、私の体力の衰えが早いのか…。スポーツの秋、少し運動を再開しようかな。(K)

広報つるがの新企画として、地域おこし協力隊（18頁参照）による連載を考えています。敦賀に良い所がたくさんあっても、長く住んでいると気づきにくいもの。岐阜県出身で、ライター経験がある西山さんならでは、新しい視点から見た敦賀について記事にしていけたらと思います。どうぞご期待。(M)